



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成28年度 きこえとことばの基本研修会



第2回 ③ 「発音学習の実際(実習)」

8月24日(水)に第2回きこえとことばの基本研修会が行われ、石垣太郎教諭から実習を交えた発音学習について話がありました。発音学習の実際については、母音や子音の一音ごとの発音の仕方や練習方法に関しても話しましたが、今回は発音の基本となる息の出し方や舌の練習方法について紹介します。



発音を学習する目的

- 発音の明瞭度を高める。
- 音や音声を意識する。
- 読話(口形を見る)の意識を高める。
- リズムやイントネーションへの理解や感覚を高める。
- 音韻を意識する。



<不明瞭さの理由>

- 音声情報が不足している。
- 自分の発音を確認できない。
- 発音の機会が少ない。

発音学習は、聞こえの障がいがある子どもにとって、苦手な学習。

ほめることを忘れない！

評価について

何がどうよかったのか、言葉で伝えられる教師の力が必要！
よかった点、意識できた点を具体的にほめる。

発音学習の実際

「息や口を意図したとおり動かす」

発音には、息や発声器官(唇、舌、歯、顎)を意図して操作できる力が必要。

唇を動かさずに言ってみよう

「あーいうえお」「ひさし」「たちなか」
舌を微妙に動かして発音している。

<息の練習> 無理なく楽しめる工夫をする。

○息を一定量、一定時間続かせる練習

・大きなシャボン玉を作る。・声を出している間、歩いて距離を競う。

○「パ」「ハ」「フ」など色々な息をだす練習

・両唇を閉じて、息を破裂させる。(パ)

紙吹雪やスイカの種を飛ばす。

・両唇や舌で息を止めずに出す。(ハ)

息を出して小さく切ったセロハンを丸める。

・両唇を丸めて息を出す。(フ)

ろうそくを消す、ピンポン玉を飛ばす、風車を回す。

○口、鼻それぞれから呼吸する。

口を 閉じて	鼻から吸って 鼻から出す	鼻から吸って 口から出す		
口を 開けて	鼻から吸って 鼻から出す	鼻から吸って 口から出す	口から吸って 口から出す	口から吸って 鼻から出す

<舌の練習> 舌を自由に動かすことが大切になる。

○ウエハースやタマゴボーロを使った練習

・小さくちぎったウエハースを唇の周りにはり、舌を伸ばして取る。

・丸いウエハースの中心を中舌でなめて穴を開ける。

・タマゴボーロを前舌に置き、前後させる。

・タマゴボーロを中舌に置き、前後させる。「あ、お、あ、お」と声を出す。

参加者の感想

☆明瞭度を上げることを第1に考えていましたが、子どもが意識できているかどうか大切だということを改めて考えさせられました。また、実習させていただいたこともあって、子どもの立場にもなれて大変有意義でした。

☆発音学習は、苦手意識が強いお子さんが多いということだったので、モチベーションを保ちながら学習をすすめていく必要があると感じました。